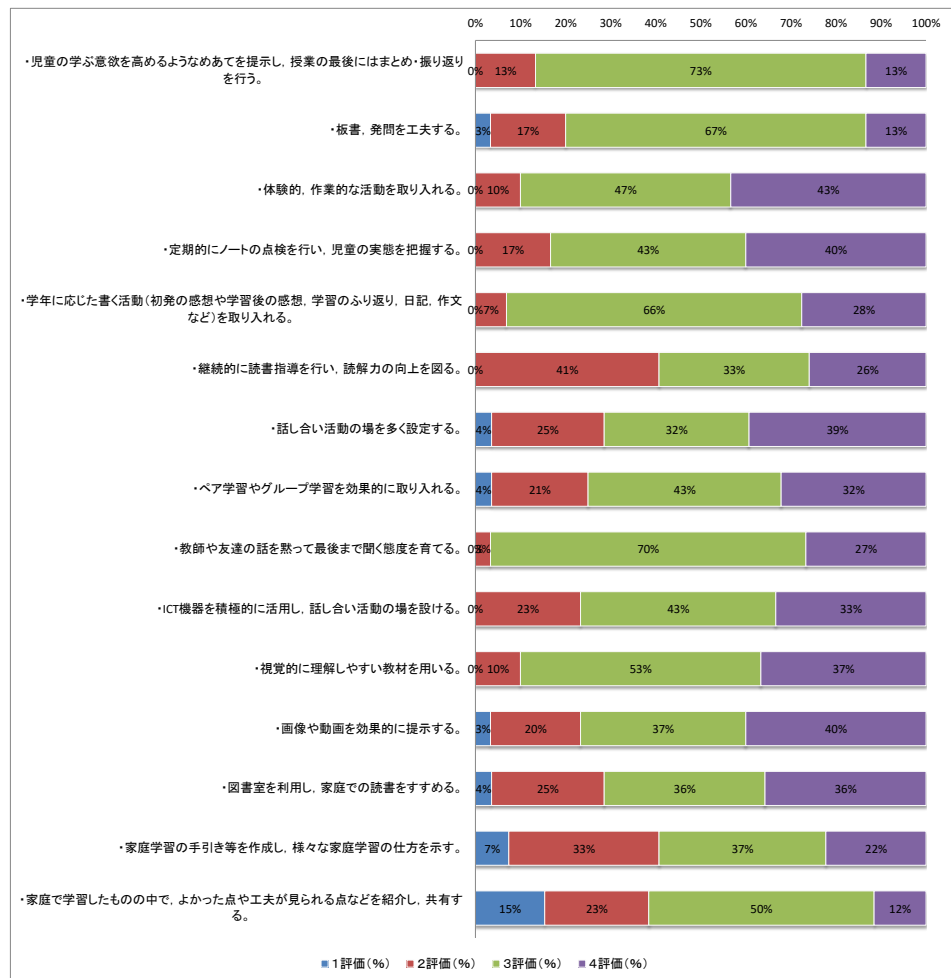
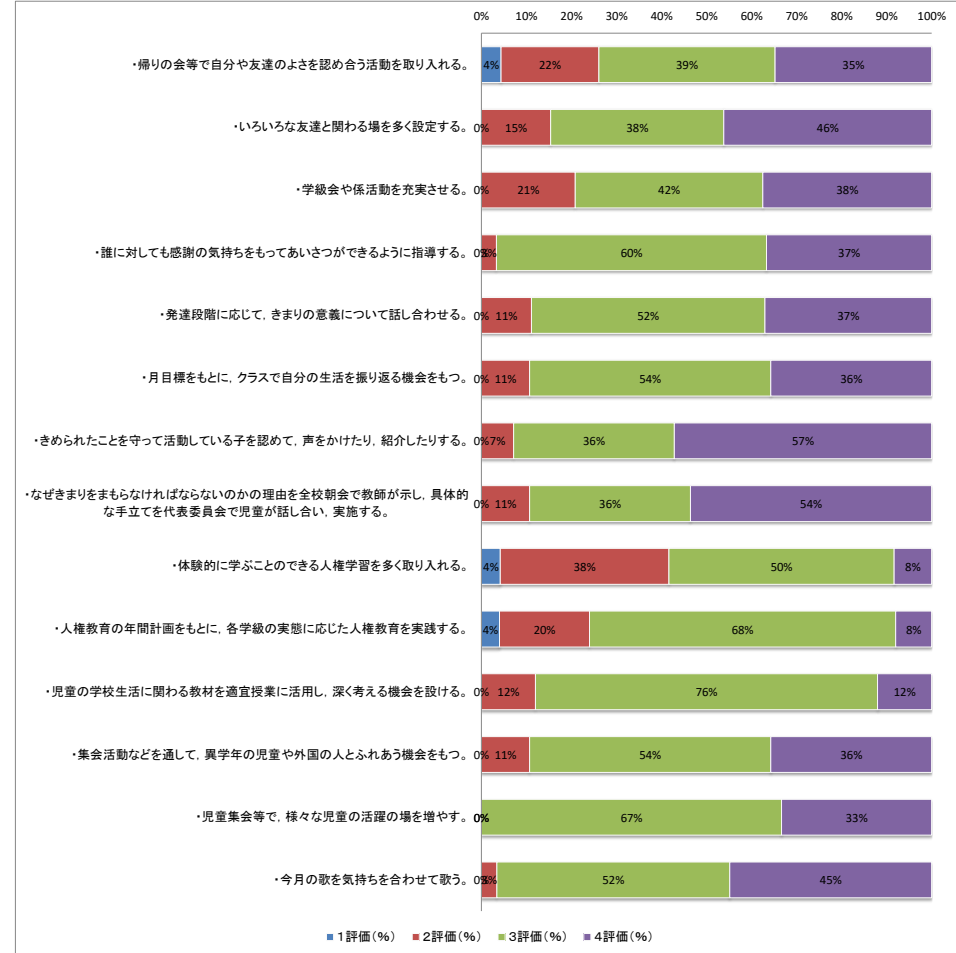


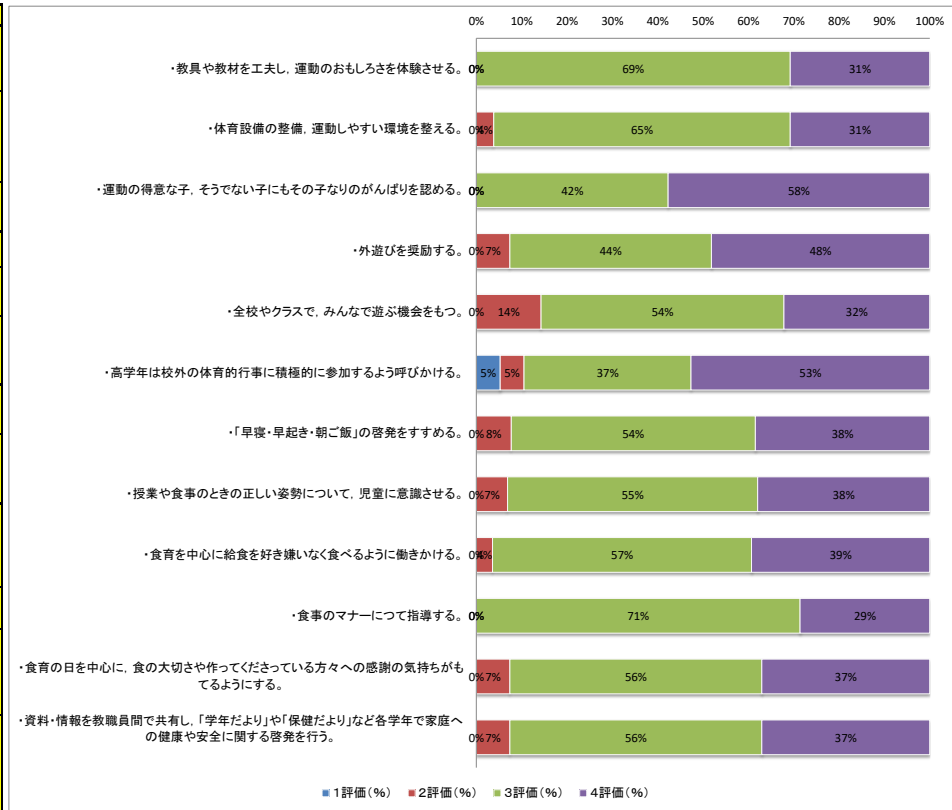
具体的取り組み事項		1評価(%)	2評価(%)	3評価(%)	4評価(%)	マイナス評価	プラス評価
よく分かる授業の工夫	・児童の学ぶ意欲を高めるようなめあてを提示し、授業の最後にはまとめ・振り返りを行う。	0%	13%	73%	13%	13%	87%
	・板書、発問を工夫する。	3%	17%	67%	13%	20%	80%
	・体験的、作業的な活動を取り入れる。	0%	10%	47%	43%	10%	90%
	・定期的にノートの点検を行い、児童の実態を把握する。	0%	17%	43%	40%	17%	83%
読む・書く・話す等の言語活動の充実	・学年に応じた書く活動(初発の感想や学習後の感想、学習のふり返し、日記、作文など)を取り入れる。	0%	7%	66%	28%	7%	93%
	・継続的に読書指導を行い、読解力の向上を図る。	0%	41%	33%	26%	41%	59%
	・話し合い活動の場を多く設定する。	4%	25%	32%	39%	29%	71%
	・ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れる。	4%	21%	43%	32%	25%	75%
	・教師や友達の話に黙って最後まで聞く態度を育てる。	0%	3%	70%	27%	3%	97%
ICTを活用した効果的な指導	・ICT機器を積極的に活用し、話し合い活動の場を設ける。	0%	23%	43%	33%	23%	77%
	・視覚的に理解しやすい教材を用いる。	0%	10%	53%	37%	10%	90%
	・画像や動画を効果的に提示する。	3%	20%	37%	40%	23%	77%
家庭学習の習慣化	・図書室を利用し、家庭での読書をすすめる。	4%	25%	36%	36%	29%	71%
	・家庭学習の手引き等を作成し、様々な家庭学習の仕方を示す。	7%	33%	37%	22%	41%	59%
	・家庭で学習したものの中で、よかった点や工夫が見られる点などを紹介し、共有する。	15%	23%	50%	12%	38%	62%



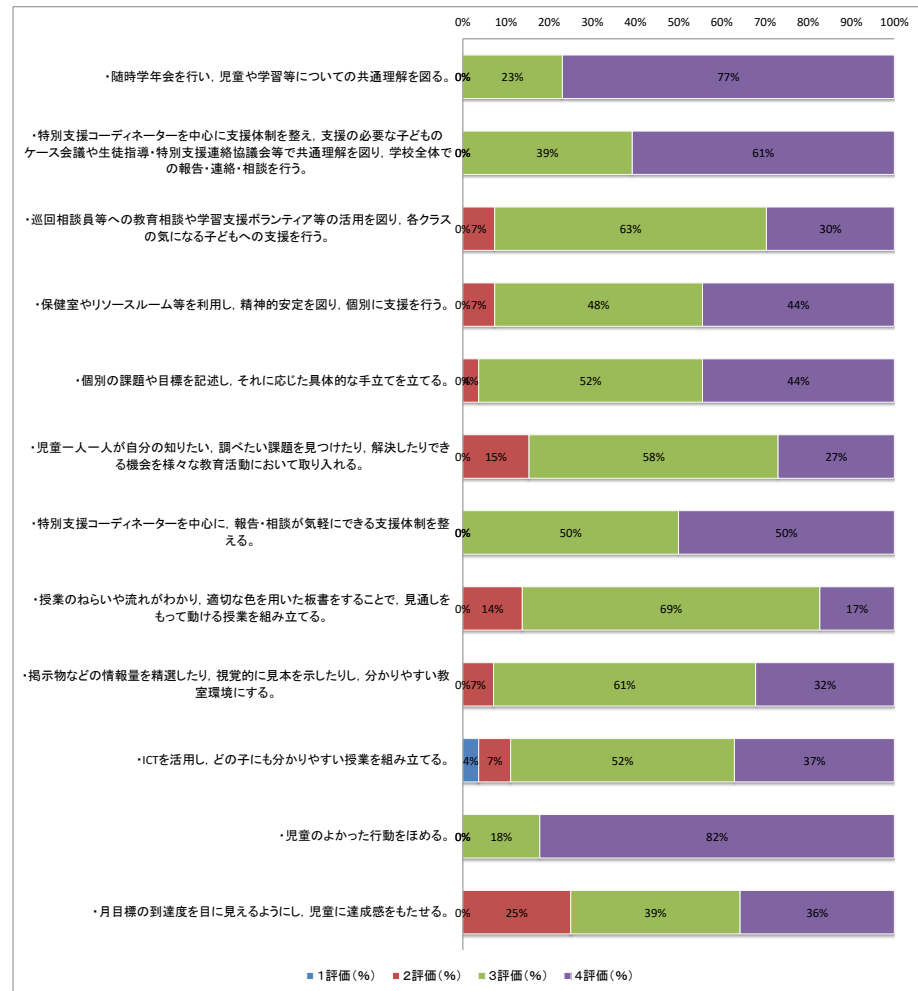
		1評価(%)	2評価(%)	3評価(%)	4評価(%)	マイナス評価	プラス評価
自分も他の人も大切に、互いに認め合える人間関係	・帰りの会等で自分や友達のよさを認め合う活動を取り入れる。	4%	22%	39%	35%	26%	74%
	・いろいろな友達と関わる場を多く設定する。	0%	15%	38%	46%	15%	85%
	・学級会や係活動を充実させる。	0%	21%	42%	38%	21%	79%
	・誰に対しても感謝の気持ちをもってあいさつができるように指導する。	0%	3%	60%	37%	3%	97%
規律や規範意識の高揚	・発達段階に応じて、きまりの意義について話し合わせる。	0%	11%	52%	37%	11%	89%
	・月目標をもとに、クラスで自分の生活を振り返る機会をもつ。	0%	11%	54%	36%	11%	89%
	・きめられたことを守って活動している子を認めて、声をかけたり、紹介したりする。	0%	7%	36%	57%	7%	93%
	・なぜきまりをまもらなければならないのかの理由を全校朝会で教師が示し、具体的な手立てを代表委員会で児童が話し合い、実施する。	0%	11%	36%	54%	11%	89%
人権感覚・人権尊重の精神の涵養	・体験的に学ぶことのできる人権学習を多く取り入れる。	4%	38%	50%	8%	42%	58%
	・人権教育の年間計画をもとに、各学級の実態に応じた人権教育を実践する。	4%	20%	68%	8%	24%	76%
	・児童の学校生活に関わる教材を適宜授業に活用し、深く考える機会を設ける。	0%	12%	76%	12%	12%	88%
体験活動の推進	・集会活動などを通して、異学年の児童や外国の人とふれあう機会をもつ。	0%	11%	54%	36%	11%	89%
	・児童集会等で、様々な児童の活躍の場を増やす。	0%	0%	67%	33%	0%	100%
	・今月の歌を気持ちを合わせて歌う。	0%	3%	52%	45%	3%	97%



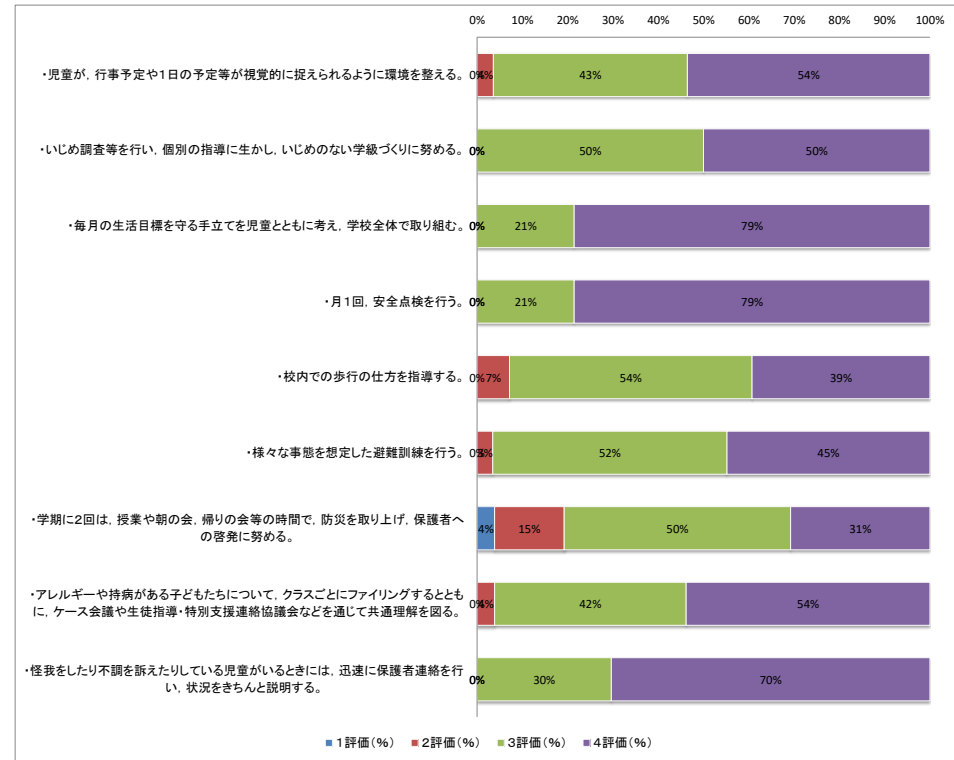
具体的取り組み事項		1評価(%)	2評価(%)	3評価(%)	4評価(%)	マイナス評価	プラス評価
運動のおもしろさを感じる 体育授業の工夫	・教具や教材を工夫し、運動のおもしろさを体験させる。	0%	0%	69%	31%	0%	100%
	・体育設備の整備、運動しやすい環境を整える。	0%	4%	65%	31%	4%	96%
	・運動の得意な子、そうでない子にもその子なりのがんばりを認める。	0%	0%	42%	58%	0%	100%
運動習慣づくり	・外遊びを奨励する。	0%	7%	44%	48%	7%	93%
	・全校やクラスで、みんなで遊ぶ機会をもつ。	0%	14%	54%	32%	14%	86%
	・高学年は校外の体育的行事に積極的に参加するよう呼びかける。	5%	5%	37%	53%	11%	89%
基本的生活習慣の育成	・「早寝・早起き・朝ご飯」の啓発をすすめる。	0%	8%	54%	38%	8%	92%
	・授業や食事のときの正しい姿勢について、児童に意識させる。	0%	7%	55%	38%	7%	93%
保健・食育の充実	・食育を中心に給食を好き嫌いなく食べるように働きかける。	0%	4%	57%	39%	4%	96%
	・食事のマナーについて指導する。	0%	0%	71%	29%	0%	100%
	・食育の日を中心に、食の大切さや作ってくださっている方々への感謝の気持ちをもてるようにする。	0%	7%	56%	37%	7%	93%
	・資料・情報を教職員間で共有し、「学年だより」や「保健だより」など各学年で家庭への健康や安全に関する啓発を行う。	0%	7%	56%	37%	7%	93%



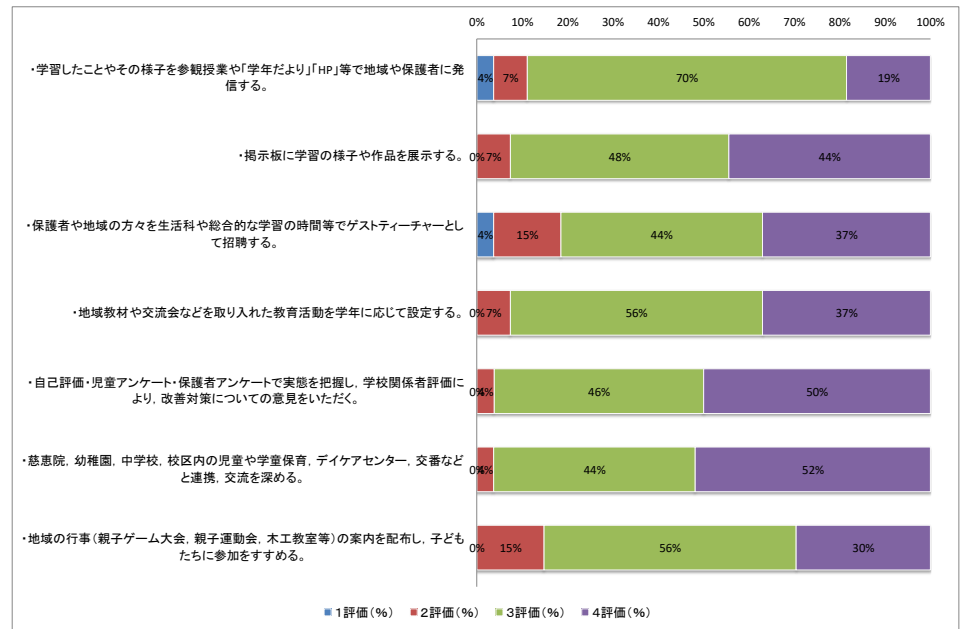
具体的取り組み事項		1評価(%)	2評価(%)	3評価(%)	4評価(%)	マイナス評価	プラス評価
積極的に組織的な児童理解	・随時学年会を行い、児童や学習等についての共通理解を図る。	0%	0%	23%	77%	0%	100%
	・特別支援コーディネーターを中心に支援体制を整え、支援の必要な子どものケース会議や生徒指導・特別支援連絡協議会等で共通理解を図り、学校全体での報告・連絡・相談を行う。	0%	0%	39%	61%	0%	100%
一人一人の実態に応じた指導の工夫	・巡回相談員等への教育相談や学習支援ボランティア等の活用を図り、各クラスの気になる子どもへの支援を行う。	0%	7%	63%	30%	7%	93%
	・保健室やリソースルーム等を利用し、精神的安定を図り、個別に支援を行う。	0%	7%	48%	44%	7%	93%
	・個別の課題や目標を記述し、それに応じた具体的な手立てを立てる。	0%	4%	52%	44%	4%	96%
	・児童一人一人が自分の知りたい、調べたい課題を見つけたり、解決したりできる機会を様々な教育活動において取り入れる。	0%	15%	58%	27%	15%	85%
特別支援教育(インクルーシブ教育)の充実	・特別支援コーディネーターを中心に、報告・相談が気軽にできる支援体制を整える。	0%	0%	50%	50%	0%	100%
	・授業のねらいや流れがわかり、適切な色を用いた板書をする事で、見通しをもって動ける授業を組み立てる。	0%	14%	69%	17%	14%	86%
	・掲示物などの情報量を精選したり、視覚的に見本を示したりし、分かりやすい教室環境にする。	0%	7%	61%	32%	7%	93%
	・ICTを活用し、どの子にも分かりやすい授業を組み立てる。	4%	7%	52%	37%	11%	89%
一人一人に応じたPBS(ポジティブな行動支援)	・児童のよかった行動をほめる。	0%	0%	18%	82%	0%	100%
	・月目標の到達度を目に見えるようにし、児童に達成感をもたせる。	0%	25%	39%	36%	25%	75%



具体的取り組み事項		1評価(%)	2評価(%)	3評価(%)	4評価(%)	マイナス評価	プラス評価
安心して過ごせる学級づくり	・児童が、行事予定や1日の予定等が視覚的に捉えられるように環境を整える。	0%	4%	43%	54%	4%	96%
	・いじめ調査等を行い、個別の指導に生かし、いじめのない学級づくりに努める。	0%	0%	50%	50%	0%	100%
	・毎月の生活目標を守る手立てを児童とともに考え、学校全体で取り組む。	0%	0%	21%	79%	0%	100%
校内の安全管理の徹底	・月1回、安全点検を行う。	0%	0%	21%	79%	0%	100%
	・校内での歩行の仕方を指導する。	0%	7%	54%	39%	7%	93%
防災意識の高揚と避難行動の徹底	・様々な事態を想定した避難訓練を行う。	0%	3%	52%	45%	3%	97%
	・学期に2回は、授業や朝の会、帰りの会等の時間で、防災を取り上げ、保護者への啓発に努める。	4%	15%	50%	31%	19%	81%
病気・怪我・アレルギーなどの丁寧な対応	・アレルギーや持病がある子どもたちについて、クラスごとにファイリングするとともに、ケース会議や生徒指導・特別支援連絡協議会などを通じて共通理解を図る。	0%	4%	42%	54%	4%	96%
	・怪我をしたり不調を訴えたりしている児童がいるときには、迅速に保護者連絡を行い、状況をきちんと説明する。	0%	0%	30%	70%	0%	100%



具体的取り組み事項		1評価(%)	2評価(%)	3評価(%)	4評価(%)	マイナス評価	プラス評価
積極的な教育活動の公開や情報発信	・学習したことやその様子を参観授業や「学年だより」「HP」等で地域や保護者に発信する。	4%	7%	70%	19%	11%	89%
	・掲示板に学習の様子や作品を展示する。	0%	7%	48%	44%	7%	93%
地域教材や交流などの地域に根ざした教育活動の推進	・保護者や地域の方々を生活科や総合的な学習の時間等でゲストティーチャーとして招聘する。	4%	15%	44%	37%	19%	81%
	・地域教材や交流会などを取り入れた教育活動を学年に応じて設定する。	0%	7%	56%	37%	7%	93%
保護者・地域の声を大切にしたり	・自己評価・児童アンケート・保護者アンケートで実態を把握し、学校関係者評価により、改善対策についての意見をいただく。	0%	4%	46%	50%	4%	96%
	・慈恵院、幼稚園、中学校、校区内の児童や学童保育、デイケアセンター、交番などと連携、交流を深める。	0%	4%	44%	52%	4%	96%
地域行事等への積極的参加奨励	・地域の行事(親子ゲーム大会、親子運動会、木工教室等)の案内を配布し、子どもたちに参加をすすめる。	0%	15%	56%	30%	15%	85%



具体的取り組み事項		1評価(%)	2評価(%)	3評価(%)	4評価(%)	マイナス評価	プラス評価
グループウェアを使った情報共有の効率化	・議題に対する意見や提案もグループウェアに投稿し、議論を活性化させる。	0%	11%	63%	26%	11%	89%
	・グループウェア上のみではなく、必要に応じて口頭や直接の情報共有を組み合わせる。	0%	4%	59%	37%	4%	96%
「チーム福島」を意識した助け合う職場づくり	・メンター制度を効果的に活用し、若手の育成を学校全体で取り組む。	0%	4%	68%	28%	4%	96%
	・困ったことや問題を話し合える雰囲気づくりに努める。	0%	7%	38%	55%	7%	93%
チャレンジ精神によるやりがいづくり	・それぞれの個性や得意なことを生かして学び合う。	0%	3%	59%	38%	3%	97%
	・昨年と同じことを行うのではなく、異なった視点から見直し、取り組みの充実や精選を図る。	0%	7%	61%	32%	7%	93%
ワークライフバランスを考えた超過勤務時間の改善	・教育的な意義を確認しながら、業務を改善する。	0%	11%	75%	14%	11%	89%
	・時刻、曜日を決め、なるべく早く帰るよう声をかけ合う。	0%	11%	75%	14%	11%	89%

